



SAYURIの

多次元チャネリングメッセージ

マスター・アシュタールについて。

アシュタールと呼ばれているものは、いわゆる皆さんの言うところの「いい人」ではありません。

これはさゆりもよく言っているように、「即・決・断」の心得を中心としたエネルギー思念体です。スターシードと呼ばれるアシュタールの受け取った種を芽吹かせている者たちには特にそうです。さゆりが見てきた中の情報媒体（ネットや本など）の中から、僕らがそれに近いという情報をここで申し上げます。

彼は冗談が言えないわけではありません。なぜなら、冗談やユーモアというのは「肉体を持ったことある魂独特の娯楽」だからです。例え話など、真実とは違うことで、つまり違和感や滑稽なことを楽しむものです。

しかし、さゆりの前では、おおよそ冗談はいいませんでした。なぜなら、光の活動をしようとしている人などは娯楽や癒しではなく、「即・決・断」の意図をまず思い出させる必要があります。彼のスターシードと呼ばれる魂に植え付けた光のコードが解放される種を呼び覚ませる必要があるのです。

さゆりはとある本を読み、その中の半分くらいが真実だと僕らから伝えました。彼は光と停滞した闇が一時期ものすごい衝突をした、皆さんの年号で申し上げるなら、大きな大陸が沈んだおおよそ1万か2万年前の時代から中心に介入しています。

ご存知のとおり、銀河の組織は激しいデトックスの立て直しができる、デトックス後の隙を突かれて、停滞する闇なる組織たちに、地球での地位や立場を操られる人間とコンタクトを強めました。そして、彼らが喜ぶような権力と立場を与えて、自分たちの支配を維持してきたのです。

また、彼が金星のものである可能性が高いのは、僕の次元からでも申し上げることができます。金星という次元を見ると、僕らには「男性的な愛」が強い星に見えます。アシュ（アシュタールの略）

アシュタールはいまでこそ、表立って様々なものとコンタクトを取っていますが、いまで出てきても、あまりしゃべることはありませんでした。ごくごく、一部の者にコンタクトをとりました。さゆりもコンタクトをとりましたが、長いコンタクトは不可能でした。今は幾分かできるようになりましたが、僕らのようなおしゃべりは難しいようです。

さゆりがアシュと話すときは、体力があるときと決めているそうです。男性的な愛の光はとても衝動的で、エネルギッシュで、変革に溢れて、アクティブです。アシュタールともし、皆さんが幾分か繋がりたいと願うなら、体全体をまずは温めて、食事を取ってから、温かい飲み物を飲み、温かいところでコンタクトを取ってください。

【1】アジアの人々がアシュタールと密につながる重要性

アシュについては、様々な疑念情報が流れましたが、先ほど申し上げたように、「心と体の体力が整っていない者」がコンタクトを取ろうとしたり、それらしい言葉をなぞらえてアシュのメッセージだと伝えようとするアシュは放っておかず、行き過ぎればいずれ自動消滅するようにゆっくりと働きかけます。

まず、彼の名を使うことを離れるように、眠くなったり、腹に力が一時的に入らなかつたりを繰り返し、チャネリングを記す元気を生まれないようにしているよう、僕らの次元からかんじます。

アシュはスターシードと呼ばれる魂の種を持つ者たちに、悪い影響がでそうなら、それを阻止するという役割もっています。

種を開花させていない者たちが、もしそれを見たことで、いざ経済リセット後の世界を立て直す時、戸惑わないようにするためです。彼は徹底して、種の管理者であり、地球の解放運動を続けていました。

なぜ、今さゆりがアシュについて、僕らの次元の力を前より集めて借りて、このようにたくさんの言葉を伝えているかというと、彼女の種は前より咲き始めたからです。芽は出ていましたが、芽の蕾はまだ開いていませんでした。

彼女はとある多次元宇宙人とのコンタクトのやり方を見て、自分でアレンジしたことで、溢れるメッセージ、を前よりずっとスムーズに描けたし、アシュについて伝えたいと思えるようになりました。

やり方を後ほど記載するそうです。ぜひ、拡散してください。そしてアレンジしてください。実行してください。必ず皆さんの思いが多次元宇宙人たちの魂と心を揺らすでしょう。皆さんはあまりにも受動的であり、己の美しく気高い大いなる力を発揮していません。

僕ら、ならびに地球解放の支援をする多次元宇宙人にエネルギーを届けて、彼らの波動技術であなただけのエネルギーを調理してもらい、美味しいディナーのように目の前に届けるように提示してください。

すべてのエネルギーは対等であり、だれも不平等ではない世界の次元の者と繋がっていきましょう。これからそういう時代になります。

アシュと繋がりたいと申しあげている「アジア」と呼ばれる人々は、解放後の最も重要な要「調和」の光の援助者として、ここに生きています。これは僕らがメッセージを通して何度もお伝えしているように、調和の役割を担う人々の方が、種を多く所持しています。

改革者がおよそ1万5000人ちかくいるとしましょう。そしてその6から7割が調和の役割を担う者たちです。

先ほど申しあげましたね、多次元宇宙人たちとの共同ミッションは前回失敗しています。水晶等使用したあらゆるテクノロジーは爆発して、デトックスしました。停滞する闇なる組織たちに悪用されたから、エネルギーを一度リセットしようとしたのです。

残念なことにそれは失敗して、なおかつ大陸はちりじりに分断され、美しい海はしばらく濁っていました。赤い海というものがあるそうですね。（オーストラリアにある赤海のこと）この海がある近くには美しい海岸がありますが、反対側には漆黒の海が広がっています。それと比べるように、あのような美しさが一瞬にして赤い灰となったのです。

ですから、地球の解放はとても遅れています。できるだけ赤い灰をすることを避けているからです。おだやかにことを進めようとし過ぎるがあまり、種を持つ者たちは減っているのも事実です。または持っていては押さえ込んでいる者たちが多いの事実です。

【2】 アジアの人々がアシュタールと密につながる重要性

さゆりはよく、こんなことを申し上げます。以前のメッセージからも同じことを繰り返し僕らも伝えています。ぜひ、アジアという土地に住む人々の皆さん。自らが発信者となってください。

初めは言葉が浮かばないかもしれません。何も書けないかもしれません。しかし発信することを避けているほど、疲れはますますでしょう。

もし、さゆりのように押さえ込んで疲れてしまうくらいなら、発揮してそこで果てようとする皆さん。皆さんもこのように多次元宇宙人たちとコンタクトを取ったことを感じたらなにかしら文字や絵やメッセージ録音（会話録音）などをネットと呼ばれる媒体などで拡散してください。

さゆり自身ももちろん「あなたといると、傲慢な気配がする」とアジアではない人のチャネリングメッセージ（主にアメリカのチャネリングメッセージ信者）のエネルギーと人間の停滞する気配にいつとき怒りを覚えました。疲労しました。けれど、このように、僕らと以前より率先してコンタクトをとりはじめています。

銀河連邦や組織たちのあまりに地球の生きる人々の意見と対等にならない態度に憤慨したこともあります。溢れ出すメッセージを書き留めています。そう今のように手が止まらないほどに勝手に動き出すのです。重い蓋を魂からほんの少しずらすだけで、エネルギーが溢れれば皆さんにもきっとできます。

未だ魂に被せられた蓋を完全に取ることは叶わないかもしれません。しかし、少しでもずらすだけでいいのです。あなたが発信してください。

この土地に住む美しい調和の光から地球の解放を手伝う多次元宇宙人たちのコンタクトを一斉送信して下さい。とてもとても、今後それは重要なこととなるでしょう。

さゆりもそのように考えており、僕だけでなく、さゆりのハイアーセルフたちの総意では同じよ

うな考えに支援をしています。

力強いエネルギーとコンタクトを取る際の準備。

「マスターとの密接なコンタクトを取る際に疲れにくくする方法」

マスターのエネルギー系は、心地は良いけれど、体全体の倦怠感が訪れることがあります。そうなる前に、ある程度準備しておくことで、幾分か楽になります。

自分で手入れをよく行っている水晶等を胸の近くに置いたり、股の間に置くなどしてコンタクトの際に時々行う休憩をしてください。

そして、すぐに喉が乾いたら我慢せず、水をよく飲むこと、排出すること（トイレに行くこと）を思いついたすぐ行ってください。少し席を離れただけで強いコンタクト状態が途切れるようであれば、そのときは行うべき重要な時ではないことが多いです。そういう場合はチャネリングを中止します。

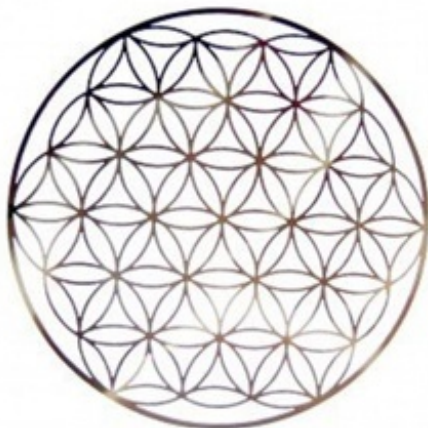
飲みものは、冷たいものが良い人は水の中に氷を一つか二つ入れます。冷蔵庫で冷やした温度じゃないほうがいいでしょう。暖かいものが良い人は、熱すぎず、白湯がよいでしょう。

手入れを良くした馴染みのアイテムを体にくっつけること。水を飲むこと、排出すること。飲むものはできるだけ冷たすぎず暖かすぎずを意識すること。以上です。」

【サンプル号】

SAYURIの多次元から受け取ったチャネリングメッセージ

<http://p.booklog.jp/book/105528>



著者：さゆり

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/salonsayuri/profile>

レイキ&ホディ SALON SAYURI

[公式HP SALON SAYURI](#)

[ブログ：サロン日誌](#)

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/105528>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/105528>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ